ナヴァホ社会における経済開発の諸相：クリーン・エネルギーと観光開発は持続可能な発展をもたらすのか。

谷本和子
（関西外国語大学）

ナヴァホは、２７万もの人口を誇る北米最大規模の先住民族である。ナヴァホ社会における主な産業は鉱業であり、国家収益全体の５１％を占める。保留地には炭鉱やウラニウム鉱山があり、採掘された鉱物はその場で処理をされて発電所に送られる。大規模採掘企業は、土地のリース料と収益のパテントによって安定した収入を保証し、また数百人規模のナヴァホの雇用を生み出してきた。しかし、その反面、周辺地域には乱暴な採掘と不十分な処理によって、深刻な環境汚染が引き起こされている。２００５年末、「ブラック・メサ炭鉱」が閉鎖された。この閉鎖を受けて、ナヴァホは大きな決断を迫られた。深刻な環境破壊はくいとめられたものの、国家収益の２０％相当を失うことになったからだ。ナヴァホ政府は新たな収益源を確保すべく、原子力発電所の設立を決め、これまで見合わせてきたカジノ事業の推進を決議したのである。本報告では、ナヴァホ社会の現状と経済開発の諸相を概観し、クリーン・エネルギーと観光開発の可能性について考察を行うものである。